

しなののうた

梅雨明けのセミの初鳴き聞きており夏の酷暑のスピード増しぬ



杉田小百合

しなののうた

打ち水をするもちりちり音立てて土の悲鳴が聞こゆるごとし

杉田小百合



しなののうた

雑草の茂れるままの  
廃屋に天を仰ぎて  
向日葵の立つ



杉田小百合

しなののうた

咲き満ちて満ち足り落ちる沙羅の花白き音して釈迦を思わす

杉田小百合

